

N I E 実践報告

1 研究テーマ

課題解決に向けて自分の考えを表現できる子どもの育成を目指して
～資料活用能力の向上を図る取組を中心に～

本校は、N I E実践校として、3年目となる。5月から全国紙、地方紙の3社の新聞購読を行っている。また、実践校として初年度、学力向上における地区研究指定を受け、上記テーマにて研究公開を実施した。新聞を資料として位置付け、これまでの新聞活用の方法を整理し、新しい活用方法を模索するよう全ての学級で実践に取り組んでいる。

2 実践内容

(1) 第1学年の取組

ア 写真の人は、どんなことを思っているのかな〔道徳〕

国語では、登場人物になりきって、どんなことを考えたか想像する学習をしている。また本校の道徳教育は、思いやりの心を育てることを重点目標の一つにしている。さらに学級活動では、「みんなと仲良くしよう」「相手の気持ちを考えて行動しよう」ということについて話し合ったり、指導したりしている。

この学習ではまず、一日分の新聞を一人一人に配布し、「人が写っている写真」で気に入ったものを選ばせる。そして、それを切り取って画用紙に貼り、表情や行動からその人がどんなことを思ったりどんな言葉を発したりしているか想像して、吹き出しに書き込む活動をした。最後に、書き込んだことをグループで紹介し合ったり画用紙に教室に掲示したりして、みんなの考えを共有し合った。



- 一日分の新聞を、じっくり眺める経験をしたことがない児童が多く、「お父さんみたいだ」と、楽しく新聞をめくる姿が見られた。また、テレビのニュースで聞いたことのある内容の写真や有名人の写真には、大変興味を持っていた。
- 写真の人は、どんなことを思ったり言ったりしているだろうと想像をめぐらすことを楽しんでおり、自分なりの言葉で吹き出しに書き込むことができた。
- △ 写真だけを見て想像を巡らせたことから、実際の記事とはほど遠い内容の書き込みをする児童が見られたので、次回取り組むときは、記事の内容を伝えて「写真の人の思い」に近づけるようにしたいと感じた。



(2) 第2学年の取組

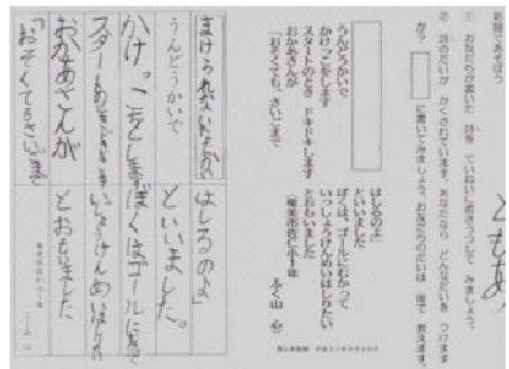
ア 新聞に載っている友達の詩のタイトルを当てよう〔国語〕

毎日、日記を書いているが、文が長くなったり、日記のタイトルが思い浮かばなかったりと、読むことや書くことについての課題を感じている。読解力を高めたり、タイトルについて考えたり、言葉の使い方を知ったりする機会になるような新聞の活用方法はないかと考えた。

低学年の子供は、新聞に慣れ親しむことが大切であるため、児童に身近で同じくらい年齢の友達が投稿している『南日本新聞』の『子供のうた』を活用することにした。活用の仕方は、視写をしたり、タイトル当てをしたりする活動である。子供のうたは、担任が選び、タイトルを隠した詩と視写をするスペースを取り入れたワークシートを作成した。子供のうたを全員で音読した後、視写を丁寧に行い、内容に合ったタイトルを考えさせた。その後、投稿した友達のタイトルを知ったり、学級の友達のタイトルを共有したりすることで、様々な考えに気づくことができた。教室にも掲示し、活動後もそれぞれのタイトルについて話題にすることができた。



- タイトル当てクイズにしたことで、児童が興味をもって取り組むことができた。自分のタイトルと友達のタイトルを比べることで、様々な表現の仕方に気づくことができた。
- 丁寧に視写をする活動で意欲面が心配だったが、短い文のために児童への負担は少なく、意欲を損なうことなく文章に親しむことができた。
- △ 担任が選んだ詩だけでなく、自分で好きな詩を選ぶ活動に広げていくことで、新聞を手にする機会はさらに増え、いろいろな記事に気づくことができるようになる。
- △ 地方紙を低学年に親しませるのは難しい。大きな見出しの文字や写真や図を用いた取り入れ方について研修していきたい。



(3) 第3学年の取組

ア 気になる新聞記事を見つけて、発表し合う。〔総合的な学習の時間〕

総合の時間において、「朝日小学生新聞」を活用し、興味・感心のある記事を見つめる活動を行った。最初は、「新聞＝難しい、大人が読むもの」というイメージを持っていた児童たちであったが、難しいことばかりではなく、なぞなぞや実験などの記事が記載されていることを知り、友だち同士で記事の見せ合いや記事に対する意見交換を行っており、少しではあるが新聞に対する難しさを払拭できたように思える。

近年では、新聞を取っていない家庭もあり、身近なものではなくなっている新聞に目を通す機会となった。小学生向けの新聞ではあるものの、3年生にとっては安易なものだけではなく、これから学習する内容(高学年向け)も記載されているため、これからの学習への意欲付けにもなった。

○ 社会や総合の時間等でまとめ活動を行う際に、どのように新聞は組み立てられているのかを知ることができた。

△ 感想を書くまでには、至らなかった。

イ 新聞形式での週報配布〔学級通信〕

身近に新聞がない児童もいるため、新聞に触れる機会を増やせるように、学級通信を新聞形式にした。2学期から行い、週報の内容としては、保護者宛だけではなく、児童たちにも見やすいように、写真や作品、日記を載せたり、週報名を児童に書いてもらったりした。

○ 学習としての取り組みに直接関係するわけではないが、自分たちに関することが載っている、又は、作成に携わった新聞として捉えていた。

○ 新聞を今までよりは身近なものとして考えることができていたように感じた。

△ 新聞係等を発足し、もっと制作に携わってもらうことで、新聞を作る側・見る側共に、新聞について更に知ることができたように思える。

(4) 第4学年の取組

ア 新聞記事の紹介〔係活動〕

「わたしのえらんだ新聞記事」として新聞記事の紹介を行った。

記事選択の視点として、

①歩いている人が立ち止まって、読みたくなるような記事

②読んだ人が「へ～」と言いたくなるような記事

○ 記事を選択するために新聞を読む機会が増えた。感想を書くこともなく、選択するだけのため、児童も気軽に取り組むことができた。

○ 児童が選択した記事で興味を持ちやすい。

△ 不定期で更新しているため、更新するシステムを作る必要がある。



イ 新聞記事をもとにした感想文の作成〔国語〕

夏休みと冬休みの課題として、新聞記事を扱う課題を提示した。まず、児童に気になる新聞記事を見付けさせた。そして、その記事をもとに保護者と話をする場をもたせ、記事に対する感想を書かせた。新聞を未購読の家庭には、要望に応じて、学校で購読中の新聞から記事を提供した。

課題として出す前に事前にも記事選択、感想記入、記事紹介を行った。



【記事選択・感想記入】



【記事・感想紹介】

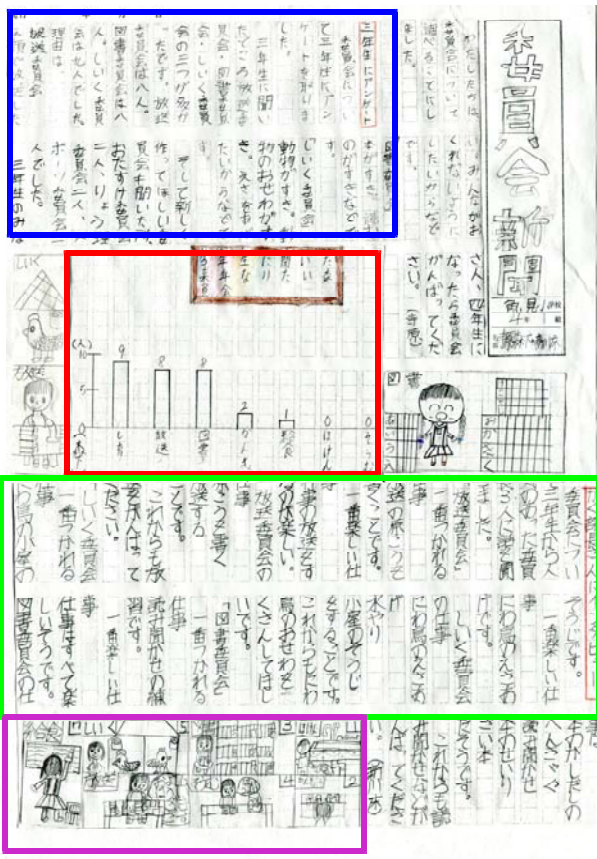


【家庭学習での取組】

- 家庭学習の課題として取り組む前に、友だちの取組の紹介を聞いたことで、取り組む際の参考となった。
- 小学生にとって難しい記事も親子で取り組んだことで、記事の内容読解の手助けとなった。
- 選択した記事はそれぞれであった。長期休業中の課題としたため、記事探しは長期間に渡った。その間、様々な出来事や人物、世の中の動き等、新聞を通して、多くの情報を得ることとなった。マスメディアとしての新聞の特色を実感できる機会となった。

ウ 新聞の作成〔国語〕

テーマを元に新聞形式でまとめた。割り付け、見出しづけ、写真の掲載など、実際の新聞を参考に作成させた。また、個人で作成するにあたり、事前にグループで新聞作成を行った。



【グループでの作成】

- アンケート結果を元にした記事
- グラフを活用した記事
- インタビューを元にした記事
- 四コマ漫画の掲載

- 四コマ漫画やランキングなど、子どもたちなりの工夫がみられた。
- 新聞作成には個人差が大きいため、グループで作成することで、互いに新聞作成の方法を学び合うことができた。
- △ 個人差が大きいため、新聞を活用した継続した指導が必要である。



(5) 第5学年の取組

ア 国語「新聞を読もう」での活用〔国語〕

国語単元「新聞を読もう」の学習で、新聞を活用した。本単元では、新聞の一面や同じ内容で異なる2つの新聞記事の読み比べを通して、新聞の編集の仕方や記事の書き方に注目し、自分たちで興味をもった記事を見つけ、意見や感想を書く。

新聞の一面には、どんなことが書かれているのか、何を見ればよいのか、紙面の構成を確認し、同じ出来事を伝える2つの記事を比べて読み、見出しの内容や使う写真の違いから、読み手に与える印象が変わることを学んだ。

さらに、『朝日小学生新聞』、『南日本新聞』、『読売新聞』の新聞記事の見出しや写真に着目し、自分で気になる記事を選んで、意見・感想を書かせた。また、自分の選んだ記事を友達と紹介し合い、それぞれの意見・感想を交流することができた。

- たくさんの情報が載っている新聞記事の本文を全て読むのではなく、見出しやリード文など記事の内容短くまとめている箇所を見ることで、記事の内容を理解できることに気付いた。
- 同じ内容の記事でも見出しや使われている写真が違うことで、与えられる印象や得られる情報が異なることに気付くことができた。
- △ 新聞記事を目にする機会が少ない。

(6) 第6学年の取組

ア 南日本新聞「ひろば」欄を活用した。〔学活〕

本校6年は、1学級のため、友だちの作品から学ぶ機会が限られている。南日本新聞「ひろば」欄には、様々な年代の意見・主張が掲載されている。特に「若い目」コーナーには、同年代の作文が記載されており、そこから多様な考え方や文章表現の仕方などを学ばせた。児童にとって、同年代の共感する気持ちや先輩からの励ましなど、貴重な作品となった。

- 学校のリーダーとして、下学年をリードしていくための心構えや接し方など学ぶことができた。
- 同年代の作品があるため、作品から伝わる思いに共感できることが多かった。

(7) 理科の取組(理科専科)

ア 「かごしま路傍三百」を活用した理科環境の充実〔理科〕

この実践は現在準備中・途中経過のものである。

これは本紙に2カ年にわたり掲載された「かごしま路傍三百」(大工園認先生執筆)を活用し、理科環境の充実を図ろうとする実践である。路傍300種の植物に関する記事を切り抜き、ファイリングして理科室前に展示した。



【写真ファイル】



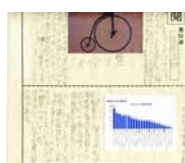
【ファイルを見る児童】

- 植物の名前や特徴が分かることで、自然への、理科学習(特に、3年生と4年生の動植物に関する单元)への興味・関心を高める一助になることを期待している。私自身にも大変役立っている。
- まとめた1冊目のファイルを理科室 前の廊下に置いてみた。通りがかった児童がファイルの写真を興味深そうに見ていた。
- ◇ 2カ年分の写真は計700枚以上になる。これをファイル3冊にまとめる。
- ◇ これからの実践なので、成果と課題は今後まとめていきたい。

3 成果と課題

(1) 成果

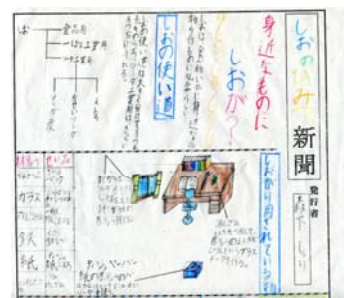
- 新しい情報、タイムリーな情報を得ることができ、社会科の資料としての活用をはじめ、4年生は県内、5年生は国内、6年生は世界各国、政治や歴史と視野をより広げることができた。
- 教科書の記述と実際をつなぐツールのひとつとなった。
- 語彙や表現技法の習得につながった。
- 児童の身近に新聞のある環境作りや様々な機会を捉えた意図的活用を行ったことで、新聞を身近なものに感じられるようになってきた。
- 情報収集において、インターネットの情報の速さやテレビの映像・音声によるわかりやすさなど、それぞれ利点はあるが、新聞については、新しい情報が定期的に手元に届くことで、それを目にする機会も多く、第三者に伝える際にも活用しやすかった。
- よむのびコンクール学級賞(1年生を除く)を受賞、記事収集の協力、新聞記事の話題で語る等、学校全体で積極的な新聞活用に取り組む姿勢が見られてよかった。
- これまでは、上の様な日記形式のものが多かったが、読み応えのあるもの、絵や図等を入れたものが増えてきた。子どもたちの作成した新聞にさまざまな工夫が見られるようになった。



【グラフの入った記事】



【地図を載せた記事】



【絵や図で説明された記事】

(2) 課題

- △ 内容読解が難しいため、教師、児童ともに記事を選択する力を付ける必要がある。下学年は慣れ親しませる活動を取り入れ、上学年は、活用、作成(表現)の活動を中心に継続した指導を行う。
- △ 全ての学年で新聞を活用した取組を行った。新聞活用については、教師が主体となって児童に新聞を読ませることが多かった。児童が自ら新聞を手に取りたくなるような手立てを取る必要がある。
- △ 学校に一部しか届かない新聞を全校でどのように活用するか工夫が必要である。
- △ 記事の扱いについては、偏った見方にならないようにするため、複数の新聞を読み比べ、様々な考え方の一つとして慎重に取り扱う必要がある。また、記事に関係する児童がいる際には、取り扱いに注意が必要である。